

# 第7期（平成28年度）事業報告書

（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

## 1. 事業内容

### (1) 研究助成事業

#### ① 第25回（平成28年度）助成事業の概要

本年度の研究助成総額は、7,585万円といたしました。

#### ② 応募の状況

本年度の研究助成募集は、4月1日より、財団のホームページでの公募を行いました。

6月30日の締切日までに、214件の応募がありました。

#### ③ 選考結果

平成28年10月3日（月）、丸ビルコンファレンスにおいて選考委員会を開催し、慎重審議の結果、84件（助成金総額7,585万円）が、助成対象候補として選考されました。その後、10月31日（月）の第15回臨時理事会で、選考案どおり決定いたしました。

助成決定先の研究者および研究題目は次頁の表の通りです。

なお、財団設立以来、25期間における助成の累計は1,347件、助成総額は13億5,953万円となっております。

番号	氏名	役職名	所属機関	研究課題名	助成金額
16-01	塚越 雅幸	助教	徳島大学	絶縁表面仕上工法によるRC構造物の耐久性向上効果の検討	¥1,200,000
16-02	大場 修	教授	京都府立大学	占領下の京都における接収住宅に関する研究	¥1,400,000
16-03	西村 颯	研究開発課 一級建築士	横浜市リハビリテ ーション事業団	知的・発達障害のある子どもの公共トイレの利用実態調査	¥1,600,000
16-04	五十子 幸樹	教授	東北大学	低頻度極大地震に対する高層建築物の対倒壊安全余裕度向上技術の開発	¥1,200,000
16-05	小幡谷 英一	准教授	筑波大学	圧縮木材の衝撃緩衝性	¥1,280,000
16-06	垂水 弘夫	教授	金沢工業大学	アルミ製天井放射空調オフィスにおける執務者の体温調節行動に関する研究	¥1,000,000
16-07	徳田 克己	教授	筑波大学	重度視覚障がい者が安全かつ快適に生活するための住環境整備の提案	¥1,250,000
16-08	後藤 哲男	教授	長岡造形大学	雪国における太陽光パネルの設置方法に関する研究 一壁面設置の効率向上や工業製品への応用を通しエネルギー自立型生活をめざす	¥1,200,000
16-09	大内田 史郎	准教授	工学院大学	旧帝国ホテルの解体から移築に関する研究	¥650,000
16-10	木多 道宏	教授	大阪大学	ガーア・アクラの非正規市街地における肯定的な社会・空間特性の解説と、ワークショップによる将来ビジョンの構想	¥1,170,000
16-11	田中 孝	助教	静岡大学	合板の透湿抵抗のコンピュータシミュレーションによる推定手法の開発	¥1,200,000
16-12	羽山 広文	教授	北海道大学大学院	高断熱・高气密住宅の室温形成要因と地域特性の評価	¥1,600,000
16-13	源城 かほり	准教授	長崎大学	温暖地における保育所の室内環境の実態把握と室内環境基準の検討	¥1,194,000
16-14	青木 孝義	教授	名古屋市立大学	安全で安心できる住生活構築のためのリアルタイム構造健全性診断技術の実用化	¥1,200,000
16-15	星野 豊	准教授	筑波大学	住宅の安心・安全を確保するための法的対応に関する総合的研究	¥1,200,000
16-16	池田 雄一	准教授	高知工業高等専門 学校	中間層免震建物及び多段免震建物の積層ゴムアイソレータの引き抜きに関する解析的・実験的研究	¥1,200,000
16-17	田中 美和	客員研究員	神奈川大学	建築金物市場におけるプレス加工による新商品開発・金型の見直し・コストダウンに関する調査研究	¥400,000
16-18	北島 栄二	准教授	国際医療福祉大学	産学官連携による高齢者の階段昇降を支援する電動手すりの開発	¥1,200,000
16-19	小澤 満津雄	准教授	群馬大学	セメント系材料の火災時における耐爆裂性評価を行うためのスクリーニング試験法の提案	¥1,200,000
16-20	阪上 宏樹	助教	九州大学	スギ心材への薬液浸透性向上に寄与する森林微生物の探索	¥1,600,000
16-21	岩田 利枝	教授	東海大学	不快グレア指標 PGSV の実用化による昼光照明制御に関する研究	¥1,200,000
16-22	山内 泰樹	教授	山形大学	生理的反応を用いた SSL 照明下の快適性評価	¥1,188,000
16-23	山下 香	特任准教授	流通科学大学	景観形成地区における一般建築物の修景手法の共有に関する研究	¥840,000
16-24	白井 和貴	准教授	北海道大学	巨大地震を受ける制振構造一地盤連成系の最適ダンパー設計法	¥1,020,000
16-25	木下 光	教授	関西大学	クールーフに寄与する高吸水・高含水率の瓦開発に関する研究	¥1,200,000

16-26	寺本 篤史	助教	広島大学	仕上げモルタルの温冷繰り返しによる剥離挙動の解明	¥1,600,000
16-27	森 太郎	准教授	北海道大学	北海道型高性能住宅群のエネルギー消費パラメータに関する研究	¥760,000
16-28	木村 彰孝	准教授	広島大学	人の心身を活性化させる機能を有する新たな木材の開発に関する基礎的検討	¥1,038,000
16-29	鎌田 洋一	教授	岩手大学	高気密エコ住宅における室内環境中のアレルギー性真菌汚染の見える化	¥1,600,000
16-30	張 晴原	教授	横浜国立大学	モンゴルのゲル建築における室内熱・空気環境とエネルギー消費量の調査	¥1,170,000
16-31	青木 哲	准教授	岐阜工業高等専門学校	建物鉛直面が受ける照り返しの遮蔽装置に関する研究	¥1,200,000
16-32	原田 悦子	教授	筑波大学	高齢者における住宅機器の利用学習と感情・情動・動機付け要因に関する認知工学的研究	¥1,600,000
16-33	本條 毅	教授	千葉大学	三次元熱画像による地域環境解析	¥1,600,000
16-34	吉野 博	理事長	住まいと環境 東北フォーラム	住宅用デシカント空調の長期性能と室内環境の評価	¥2,000,000
16-35	吉田 伸治	准教授	奈良女子大学	夏/冬の日射遮蔽/誘引を高効率に行う再帰反射フィルム貼付型外付ブラインドの開発	¥1,600,000
16-36	前島 彩子	講師	明海大学	戸建住宅の液状化復旧工事に関する研究	¥550,000
16-37	川瀬 博	教授	京都大学	熊本地震の観測強震動に対応できる耐震補強工法の検証研究	¥1,600,000
16-38	名木野 晴暢	准教授	大分工業高等専門学校	直下型強地震による建物倒壊過程の理論的解明に向けた高分解能な動的解析手法の開発	¥1,200,000
16-39	高田 真人	助教	熊本大学	計画・防災・構造・歴史を踏まえつつ環境主体な伝統的町並みの保存・復興手法の開発	¥2,000,000
16-40	山崎 亨史	主査	北海道立総合研究機構	建材の効率的生産に向けた木材性質判定技術の開発	¥1,200,000
16-41	鈴木 修一	特任教授(京都大学名誉教授)	京都大学	建築外装材の藻類繁殖による汚れの抑制、除去に関する研究	¥1,200,000
16-42	藤澤 美恵子	教授	金沢大学	認知バイアス実験から検証する断熱性能向上への可能性	¥1,600,000
16-43	岡部 明子	教授	東京大学	高密度インフォーマル居住地区の内発的住環境改善提案 ー都市河川沿いで進む護岸整備に適応してー	¥1,000,000
16-44	石山 央樹	准教授	中部大学	潮干に関する研究	¥1,600,000
16-45	藤本 郷史	准教授	宇都宮大学	建築材料の火災燃焼時のガス有害性評価手法の開発・標準化のための調査および各種試験評価法の実験的比較	¥1,200,000
16-46	須田 達	准教授	金沢工業大学	金沢町家の耐震性能評価と耐震補強方法に関する研究	¥1,200,000
16-47	花里 利一	教授	三重大学	非木造歴史的建造物の歴史火災による損傷評価法-ギリシャ・パルテノン神殿への適用	¥1,520,000
16-48	森 拓郎	助教	京都大学	木造住宅の残余耐力評価と補強に関する研究	¥1,940,000
16-49	崔 琥	助教	東京大学	途上国の伝統的構造形式である内蔵無補強組積壁体の面外転倒を含めた真の耐震性能の究明および補強手法の開発に関する解析的研究	¥1,080,000
16-50	白土 博康	研究主任	北海道立総合研究機構	低負荷住宅に対応する放射ラジエータの放熱能力評価手法の確立	¥800,000

調査研究助成合計

¥63,438,000

若手	名前	役職名	所属機関	研究課題	助成金額
16-51	戸田 智之	助教	長岡技術科学大学	精密設計された触媒化学によって創製される高機能性ゴムの開発	¥350,000
16-52	KIM WOOKYUNG	助教	広島大学	水素爆発事故における安全性評価モデル開発	¥300,000
16-53	毛利 聡	助教	舞鶴工業高等専門学校	あと施工アンカーの施工部が鉄筋コンクリート部材の中性化および鉄筋腐食に及ぼす影響の評価	¥210,000
16-54	西野 雄一郎	博士研究員	大阪市立大学都市研究プラザ	CO-RENOVAITON に向けての利用者主体の建築再生の評価	¥500,000
16-55	YOO Sung-Jun	学術研究員	九州大学	電子煙草(e-Cigarette)使用に伴う1次曝露と室内環境中での2次・3次曝露の定量評価モデル	¥450,000
16-56	川本 悠紀子	特別研究員	同志社大学	古代ローマ住宅における庭園と住環境：Wilhelmina F. Jashemski Papersの資料に基づく考察	¥450,000
16-57	山岸 吉弘	助教	日本大学	石造建造物に用いられる石材の採掘・加工・構築に関する建築史学的研究	¥350,000
16-58	藤井 容子	助教	香川大学	障がい児の安全性の創造に寄与する自己領域の構築手法に関する研究	¥450,000
16-59	土井 脩史	専門研究員	立命館大学	温暖地域の居住文化に適合した環境配慮住宅の開発に関する研究	¥350,000
16-60	朝原 誠	助教	岐阜大学	水素社会における室内水素漏洩を想定した強制換気防爆システムの性能評価	¥450,000
16-61	佐々木 留美子	特任助教	首都大学東京	タイにおける技術主体間の建築環境技術の伝播に関する研究	¥350,000
16-62	富安 亮輔	助教	東洋大学	災害時二次避難所として利用される宿泊施設の社会ストックの可能性	¥500,000
16-63	中嶋 麻起子	助教	神戸大学	外壁面への雨水衝突による生物汚れ発生のメカニズムに関する研究	¥500,000
16-64	中西 大輔	共同研究員	京都府立大学大学院	江戸時代の上賀茂神社と大徳寺を結ぶ瓦師の営業網と、瓦供給に関する史的 research	¥450,000
16-65	松井 大輔	助教	新潟大学	城端における歴史的景観の実態に関する研究	¥500,000
16-66	大井 隆弘	教育研究助手	東京芸術大学	近代日本における藤棚付き住宅に関する研究	¥350,000
16-67	磯部 孝行	助教	武蔵野大学	木質資源の有効活用に関する研究 古材の流通システムに着目した環境負荷低減効果の検証	¥350,000
16-68	河原 大	特任研究員	東京大学大学院	伝統構法木造建築物の隅柱を想定した仕口接合部の回転抵抗性能評価に関する研究	¥450,000
16-69	野口 紗生	客員研究員	明治大学	音響特性に着目した子どもの落ち着きを誘う環境設定方法の検討	¥450,000
16-70	小堀 光	助教	静岡大学	熱処理による国産材の改質と、色調、振動特性変化の定量化	¥450,000

若手研究助成（若手研究者）合計 8,210,000

学生	名前	役職名	所属機関	研究課題	助成金額
16-71	落合 陽	博士課程2年	東京大学大学院	木材の割裂破壊メカニズムの解明と理論式の提案に関する研究	¥300,000
16-72	小原 えり	博士後期課程3年	明治大学	書院造の空間構成のヴィジュアル化とその空間構成手法による住空間の提案 ースペースシンタクス理論と差異理論による解析からー	¥300,000

16-73	副田 和哉	博士課程1年	佐賀大学	全周パノラマ画像を用いた空間の記述法に関する研究	¥300,000
16-74	鈴木 敦詞	博士後期課程	東北大学	制振構面におけるH形鋼梁の保有性能評価式の構築	¥300,000
16-75	小川 敬多	博士後期課程	名古屋大学大学院	めり込み負荷下における木材の力学的耐久性	¥300,000
16-76	村山 和繁	博士課程1年	岐阜大学大学院	促進劣化試験による集成材の耐久性評価	¥300,000
16-77	浅井 竜也	博士課程2年	東京大学	津波漂流物衝突時の衝撃外力が作用する建築物の応答評価に関する研究	¥300,000
16-78	益邑 明伸	博士後期課程1年	東京大学	東日本大震災津波被災地の居住環境の再建と地域の産業復興の関係に関する研究	¥300,000
16-79	滝澤 正玄	博士後期課程2年	横浜国立大学大学院	密集市街地における換気塔を利用した住宅の通風・換気促進に関する研究	¥300,000
16-80	白石 レイ	博士後期課程	九州大学	レジリエント・コミュニティが拓く新しい社会住宅の計画技術 フィリピン・メトロマニラにおける「People's Plan」から	¥300,000
16-81	金澤 推	博士後期課程1年	金沢大学大学院	廃石膏ボードの排水処理への利用性の評価	¥300,000
16-82	常安 翔太	博士後期課程2年次	千葉大学大学院	省エネルギー化を可能とする多色発光・反射選択制御型革新的発光・調光デバイスの創出	¥300,000
16-83	畔柳 知宏	博士課程1年	東京工業大学	重要伝統的建造物群保存地区の修理修景事業における建築実務者の実施体制と活動実態	¥300,000
16-84	中山 一秀	博士課程1年	徳島大学大学院	電気化学的防食工法適用後の各種表面仕上げ材の施工が補修効果持続性に与える影響	¥300,000

若手研究助成（学生）合計 4,200,000

第25回（平成28年度）研究助成総合計 84件 75,848,000

## (2) 自主研究事業

### [1] 第6回 LIXIL 国際大学建築コンペ

(共催 株式会社 LIXIL、北海道大樹町)

現代の快適さは、環境を遮断し、バリアをつくることによりもたらされてきました。しかし、現代に必要なものは、自然に近い暮らしなのかもしれません。そこで快適な生活を楽しむことのできる、組み立て、移動できる軽い住居を考えてください。移動できるということは、周囲の状況を読み取り、配慮し、関係を持つということです。また、簡易な組み立て住居であることは、自然の環境や地面に近づき、その場所の豊かさをもたらすでしょう。組み立て、移動でき、大樹町の夏や冬など、環境を楽しめる住居を考えてください。ここで考える自然や周囲との関係は、都市に移動しても可能な周囲の読み取り方をもたらすかもしれません。この建築の提案をテーマに世界の有力大学の学生による設計コンペティションを実施し、7月20日開催の公開審査会にてデンマーク王立芸術アカデミー「INFINITE FIELD」が最優秀作品に選ばれました。「ムメドウズ」に実際に建設され10月21日に現地にて竣工式を行いました。今後は実験データの技術的な有効性を検証し、社会に情報を発信していきます。

#### [審査委員]

隈 研吾 (委員長、東京大学 教授)、野城 智也 (審査員、東京大学生産技術研究所教授)、新谷眞人 (審査員、早稲田大学名誉教授)、塚本由晴 (審査員、東京工業大学院教授)、ディナ・バントロツク (審査員、カルフォルニア大学バークレー校教授)  
(参加大学)

コーネル建築大学(アメリカ) パーソンズ美術大学(アメリカ) メキシコ国立大学(ノルウェー) ミラノ大学(イタリア)  
デンマーク王立大学(デンマーク) パリ・ラヴァレット建築大学(フランス) スイス連邦工科大学チューリッヒ校(スイス)  
メルボルン大学(オーストラリア) チェラロンコン大学(タイ) ケープタウン大学(南アフリカ) 横浜国立大学(日本)  
京都工芸繊維大学(日本)

### [2] ワークショップスタジオの運営

「スタジオ メム」は、築40年以上経過した牧草保管用倉庫を、倉庫として使われていた当時の雰囲気そのままに、ワークショップ利用を考慮のうえ、改修生まれ変わった施設です。この施設では、情報ネットワークの発達により都心から個性豊かな地方都市で生活する人が増えている状況を踏まえ、私たちのライフスタイルの変化に着目し、各種講座やワークショップを通じて「これからのライフスタイル」を考えます。

#### [実施事項]

本年度は、伊東建築塾 (代表：伊東豊雄) によるワークショップ講座を2回実施しました。「地場の素材で家具」をつくるでは、家具デザイナーの藤江和子氏及び家具職人の宮本茂紀氏を招いて伊東塾の小中高生と大樹町の中学生による椅子等をつくる講座を行いました。また、「大樹町の食を楽しむ」では、料理家のヒラタマリ氏を招いて地元の食材を使った珍しい家庭料理を大樹町、帯広市、池田町から参加の一般の方に教えながら一緒に調理する講座を開講しました。十勝の産業に関連したテーマの講座を実施しました。

### [3] メムメドウズを活用した学生研修

(委員長：京都大学 銚井教授)

メムメドウズ等の施設を活用し、学生自らが住宅に関する研究テーマを設定、滞在しながら実験・分析し、レポートを発表します。これにより、若い世代が住宅及び住環境、地域特性や住まい方などの知識を深めるとともに、将来望まれる住宅像を自ら考える場としています。

#### [実施事項]

地元大樹町の大樹高校と、京都大学大学院工学研究科ならびに神戸大学大学院工学科の連携による調査研究・教育活動「\*アクティブ・ラーニング学習交流会」を昨年に引き続き行いました。

\*アクティブ・ラーニングとは：教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学習者が能動的に学習することによって、認知的、理論的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

学習交流会は、一般的な講義形式の学習とは異なり、メムメドウズ等の施設を活用し、学生自ら能動的に学習していく場として開催するものであります。本年度は、大樹高校の校舎を研究の舞台とし、身近な環境での調査を実施しました。両大学の学生が指導し大樹高校の生徒が主体となり調査を行い、調査結果を高校生が発表しました。これらは生徒の自然科学・工学に対する探究心を高め、科学的な思考や表現力の育成を目的とします。また、地域気候環境の異なる学生・生徒の交流を通して、コミュニケーション能力を高めるとともに、地域文化や住まい方・暮らし方について学ぶ場となります。

### [4] バングラディッシュ 竹構造の家（継続事業）

(委員長：長岡造形大学 山下 秀之教授)

バングラデッシュは北海道の約2倍の面積に15倍の人口密度であり人口密集地帯であり、人口は増加傾向にあります。また洪水や暴風が多くデルタ地帯では10年に1度の洪水で国土の70%が沈むと言われています。そこでバングラデッシュ特産の竹を主体構造とする複数階住宅を建設することによって、人口増加による農地の宅地化をとめ、3年で生育する竹を利用して環境負荷を低減することを研究目的として洪水や暴風に強いボラック竹(世界最強の竹、南米産グアドゥアに匹敵、3年で成木)による2階建ての高床式実験住宅を建設しました。今後は強度、居住性等の実験を行い実用に向けた研究を進めて行くと同時に日本国内の建材にもその研究成果を適応し、竹の特性である曲げ強度が高い性能を取り入れ、耐震性住宅及び建材を研究します。

### [5] 健康のための住宅環境研究（継続事業）

(共催 北海道大樹町、株式会社LIXIL 帯広営業所)

寒冷な冬季環境下にある大樹町の高齢者施設を対象として、大量のエネルギーを使用する給湯・温水システムにおける熱損失を低減するところにより省エネルギーを図るとともに、高齢者が快適に過ごせるように冬は暖かく、夏は涼しい室内環境の実現を目的としています。

## [調査結果]

### ● 施設の重油消費量

本施設のボイラーの熱源はA重油であり、重油消費量を施設責任者が毎日、確認し、記録したデータを検証した結果、冬季では夏季に比べ3～5倍の重油を消費していた。

### ● 熱量算定結果

本施設の重油消費量では温水供給システムの占める割合は22%、給湯系統が20%、浴槽昇温系統が1%であることがわかった。ボイラーの設計効率は、82.5%であるが、使用年数が20年を超えていることから、排ガス損失量はさらに大きいと考えられる。これらの結果から、エネルギー消費量の多い系統において、適切に対策を行うことが効果的であるといえる。

## [結果からの考察]

### ● 温水供給システムに関する考察

居住者への聴取から、冬季に部屋が暑いとの意見が多くあり、設定温度の見直しを検討することとした。その結果、設定温度を適度に下げる等の行うことで、生活の質を落とさずに省エネルギー効果を得ることができると考えられる。

### ● 給湯システムに関する考察

温水温度測定結果より、省エネルギー策として3つの対策案が考えられる。

1つ目は給湯の往きと還りの温水温度の差が2.5℃もあるため、配管の断熱を見直す。2つ目は、貯湯槽へ補給される水道水を冬季に限りボイラーの排熱等を利用して補給水の温度を上げる。3つ目は給湯の往き温度が高温の温水が送られており、設定温度の見直しを行う。

### ● 浴槽昇温システムに関する考察

現段階ではポンプ停止時の配管からの放熱損失量に関して考慮できていない。

浴槽昇温系統ではポンプの発停が多いため停止時の熱損失が大きいことが予想される。相当量の熱損失が見込まれるため、今後数値解析等によりポンプ停止時の熱損失の定量化を行う。

## [まとめ]

高齢者介護施設の給湯・温水システムにおいて、効率的な省エネルギー対策を施すため、各系統におけるエネルギー消費量を測定した。現段階では給湯系統と温水供給系統におけるエネルギー消費量が大きいため、これらの系統における省エネルギー対策を考案していくことが適切と考える。温水供給系統においては床暖房の設定温度の見直しを行うことが効果的であったため、別系統についても順次設定温度の見直しを行う。今後は未だ算定できていない各系統の停止時の熱量算出を行うとともに、省エネ対策手法の効果を検証する。



## [6] 安心、快適な住環境研究会

(共催：株式会社 LIXIL)

今後、日本では高齢化社会を迎え独居老人の増加や老々介護世帯の増加などが予想されています。また、核家族や母子家庭など家族の形態が多様化しています。

このような世帯における病気、けがなどと住環境における関連を調査・研究し、安心して快適な住環境とは何かを提案します。

### [実施要領]

研究会のテーマに沿った研究者を大学等の研究機関から紹介を受け、その研究者の研究課題の応募から助成を決定します。

### [実施事項]

- ① 応募の状況 9 件
- ② 選考結果 3 件 (3 件の研究機関は学校法人順天堂)
- ③ 助成金額 800 万円

名前	役職名	研究課題	金額
加藤 倫子	准教授	心不全患者の在宅ケアに適した住環境の整備に関する研究	¥2,800,000
角田 篤信	准教授	めまい・平衡障害をもつ人にとって安全で優しい住まいの設備・設計に関する研究	¥2,600,000
富永 光俊	准教授	高齢者の肌の乾燥によるかゆみ発症と住宅環境に関する研究	¥2,600,000

## [7] 環境技術環境機構「メムメドウズ」の運営

実験住宅「メーム」及びスマートリフォーム住宅を東京大学生産技術研究所による耐震、断熱等の実験検証を進めると同時に環境を含む住生活の研究を目的として国際学生建築コンペの最優秀作品の建設と検証実験を行い、住生活を取りまく多様な実験施設として運用を図って行きます。

### (施設概要)

1. 実験住宅「メーム」「竹の家」「町まとう家」「Barn House」「Horizon House」「NEST WE GROW」「INVERTED HOUSE」「INFINITE FIELD」
2. ワークショップスタジオ「スタジオ メム」
3. スマートリフォーム住宅  
事務棟、コンファレンスセンター（宿泊施設）、住宅1・2号棟、管理棟、ログハウス1号棟、ログハウス2号棟、多目的施設、レストラン棟、果樹園

## 2. 理事会・評議員会

### (1) 第13回 通常理事会

日時：平成28年5月2日

開催場所：書面決議

決議事項：第1号議案 第6期（平成27年度）事業報告書の承認

第2号議案 第6期（平成27年度）財務諸表等の承認

第3号議案 評議員会の開催の承認を求める件

第4号議案 基本財産の株式に関する議決権行使の承認を求める件

出席等：提案書に対し、理事9名全員の書面による同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。

### (2) 第7回 定時評議員会

日時：平成28年5月18日

開催場所：日本工業倶楽部第6会議室

決議事項：第1号議案 第6期（平成27年度）事業報告書承認の件

第2号議案 第6期（平成27年度）財務諸表等承認の件

第3号議案 理事選任の承認を求める件

出席等：決議に加わることの出来る評議員9名中7名が出席し議案に対して、全員一致をもって承認可決された。

### (3) 第13回 臨時理事会

日時：平成28年5月18日

開催場所：日本工業倶楽部第6会議室

決議事項：第1号議案 代表理事選任の承認を求める件

出席等：決議に加わることの出来る理事9名中7名が出席し議案に対して、全員一致をもって承認可決された。

### (4) 第14回 臨時理事会

日時：平成28年7月15日

開催場所：書面決議

決議事項：第1号議案 研究助成事業の選考委員及び選考委員長選任の承認

出席等：提案書に対し、理事9名全員の書面による同意の意思表示により、理事会の決議があったとみなされた。

### (5) 第15回 臨時理事会

日時：平成28年10月31日

開催場所：書面決議

決定事項：第1号議案 平成28年度助成先及び助成金額の承認を求める件

出席者：提案書に対し、理事9名全員の書面による同意の意思表示により、  
理事会の決議があったとみなされた。

**(6) 第14回 通常理事会**

日時：平成29年3月10日

開催場所：書面決議

決議事項：第1号議案 平成29年度事業計画の承認を求める件

第2号議案 平成29年度正味財産増減予算の承認を求める件

第3号議案 資金調達及び設備投資の見込みについて承認を求める件

出席等：提案書に対し、理事9名全員の書面による同意の意思表示により、  
理事会の決議があったとみなされた。